

分かる。本郷正豊については詳しく知られていないが、彼は打鍼の開祖である夢分流の御菌意齋の曾孫であり、母系の家を継いだので、本郷を名乗った。『鍼灸重宝記』の内容は当時の鍼灸の本道を詳しく説明しており、臨床教育のテキストとして大変優れたものであった。本郷正豊は打鍼系の人であったので、『鍼灸重宝記』の主要な内容は打鍼についての記載であると思われるがちである

が、当時における鍼灸のすべての治療方法について、意外に客観的に詳しく説明がなされている。つまり、鍼灸の臨床教育の意志があった上に、打鍼の系統でありながら、本郷が自分でも臨床で使いこなせるほど、他流派の治療方法を詳しく認識していたことが伺える。

(平成19年10月例会)

## 明治28年に翻訳出版された ビルロートの看護書について

平尾真智子

19世紀、ウィーンの外科医ビルロートの著わした看護書が明治28年(1895)年に日本でも翻訳出版された。この本は本国でも版を重ね、各国語に翻訳された看護書のベストセラーであり、日本でも看護婦養成のためのテキストとして用いられた。この本にはナイチンゲールの看護書の一部が収録されていたため、日本の看護界にナイチンゲールの看護を紹介する役割も果たした。

ビルロート(Christian Albert Theodor Billroth 1829-1894)はドイツ生まれ、ベルリン大学で外科・病理学を研究し、1860年チューリヒ大学外科学教授、1867年ウィーン大学外科学教授となる。1881年胃がんの胃切除に成功。『一般外科病理』(1863)、『病人看護学』(1881)は版を重ね、各国語に翻訳され、日本語訳もでている。『病人看護学』の原書名は“Die Krankenpflege im Haus und Hospital — Ein Handbuch für Familien und Krankenpflegerinnen von Dr. Billroth”で1881年初版、1888年第3版、1894年第5版、1914年までに第8版、1919年に第9版がでており、世界9ヶ国語に翻訳されている。日本語訳翻訳者の佐伯理一郎は医師で京都看病婦学校の教師であり、原書第3版(1888年)を翻訳、明治28年に『普通看護学』として吐鳳堂(東京市)より出版した。全2冊(巻上・巻下)、全389頁、定価は巻上35銭、巻下50銭である。初版、

第2版は1年で売り切れ、発刊後6年間で7版、1万冊を越えた。第18版(大正2年)の発行が確認されている。

本の表紙にはドクトル佐伯理一郎訳補、普通看護学とあり、序文は北里柴三郎、原序はビルロート、例言は佐伯理一郎が書いている。構成は第1編目次、誘導編、第1章～第3章、第2編目次、第4章～第9章、付録となっている。原序にはビルロートが推薦する看護書としてナイチンゲール著『看病学の栞』、ワイマール出版『看護婦の袖珍教科書』、など6冊があげられている。また序文は北里柴三郎の看護観が表現されている貴重なものである。北里は佐伯理一郎と同郷(熊本)で、ビルロートの看護書への信頼があり、京都看病婦学校の卒業生を養生園の看護婦として採用している。各章の内容は第1章病室、第2章久しく病床に在る患者の看護法、患者の特異性及看護婦の監督に関するナイチンゲール女史の訓戒、第3章医療的看護の通則、第4章手術の準備及包帯術、第5章熱病一般の観察及看護法、第6章伝染病の看護法、予防法、消毒法、第7章神経病及精神病の看護法、第8章救急看護法、第9章滋養食物論、付録人体解剖学及生理学、となっている。日本語訳の第2版からは原書第5版にある小児看護法が追加されている。この看護書の特徴として、①看

護学校のテキストであるため、助産を除く総合的な看護の内容となっている。②基礎看護法のほかに「精神科看護法」、「小児看護法」、「滋養食物論」も包含している。③ナイチンゲールの看護書や精神や小児、栄養の専門領域の文献を参照している。④付録に解剖生理が設問形式で記載され、看護法と解剖生理が不可分であることが意識されている。

佐伯（1862～1953）は熊本に生まれ海軍軍医補となり、ペンシルバニア大学に留学後、ウィーンにも留学しビルロートに師事、イギリスのナイチンゲールを訪問している。京都看病婦学校の校長（明治30年～昭和26年）である。彼の訳の特徴は①「訳者曰く～」を使用し、日本に適用できないところの訳を補っている（訳補）。②誘導編を「看病人の心得」と意識している。③精神病看護法に京都岩倉村の保養園を追加し日本の実情を追加している。④ナイチンゲールの看護書の構成を参考としたと思われる「小見出し」が採用されている、

などがある。

ビルロートは執筆の目的として看病学を学ぶための適切な書がないこと、他人の苦痛を助ける方法を記述したこと、看護婦としての性質や健康、患者への接し方、養成について述べ、看護婦は医師につき人命に関する貴重な業であること、看護婦学校は大病院附属が最適であること、ウィーンに「ルドルフ大公記念看護学校」を設け30名の看護婦を養成していること、を述べており、彼の看護観がよく表現されている。彼はナイチンゲール・スクールをモデルにした宗教によらない独立した教育機関を寄付金を基に創設した。彼の看護書は外科医による本格的な看護書であり、19世紀後半における外科的治療の進歩とそれとに伴う病院看護の重要性がよく認識されている。オーストリアの看護の改善は近代的な訓練の開始とテキストを作成したビルロートに始まる。

（平成19年12月例会）

## 猫免疫不全ウイルス感染症

石田 卓夫

### ●歴史

米国カリフォルニア州のサンフランシスコ近くの多頭飼育家庭で、1981年ころより後天性免疫不全症候群（AIDS）を疑う猫の疾患が複数例発生した。猫の症状が当時サンフランシスコでも問題になっていた人間のAIDSに似ていたため、1986年になってカリフォルニア大学デイビス校獣医学部 Niels Pedersen 教授に症例は紹介された。Pedersen 教授はHIV類似のウイルスの存在を疑い、HIV分離に使用される手法を用いたところ、レンチウイルスが分離された。分離ウイルスはHIVとは類似であるものの異なるウイルスであることがわかり、さらに他の動物レンチウイルスとも異なることを確認し、1987年に猫Tリンパ球親和性レンチウイルス（FTLV）として分離が報告された。病原ウイルスはその後、免疫不全レンチウイルス命

名法に関するWHOの勧告に従い、レトロウイルス科、レンチウイルス属、猫レンチウイルス群の猫免疫不全ウイルス（Feline immunodeficiency virus: FIV）と再命名された。

### ●疫学

FIV感染は1986年に米国で最初に発見された後、世界中の家猫で見られることがわかった。過去の保存血清における抗体陽性例は米国／日本における保存例で1968年までしか遡ることはできないが、近縁のレンチウイルスが多く的大型猫科動物にも認められていることから、猫科動物が犬、猫の共通の祖先から別れた直後から存在していたものと思われる。猫の一般集団（健康猫）におけるFIV感染率は、野外における猫の密度に比例し、密度の高い地域では非常に高い。世界中で